



教皇様の敵

Libreria Editrice Vaticana, Città del Vaticanoの転載許可済
発行所 ©1987
財団法人 精道教育促進協会
〒659 兵庫県芦屋市船戸町12-6
☎(0797)31-3452

御降誕―神の現われ

1 「主イエズス・キリストの父である神をたたえよう。」(エフェゾ1・3)

父なる神を称えましょう。なぜなら、「神はキリストにおいて天国から、私たちが霊のすべての祝福で満たされた。神は世の創造以前から、キリストにおいて私たちを選び、イエズス・キリストによって私たちを御自身の養子にしようと予定された」(エフェゾ1・3-5)から。

2 「御告げの祈り」を唱えに集う今、クリスマスはこの喜びに満ちた秘義に思いを巡らせてみたいと思えます。御父とみことば。御子は御父と全く同じ本性であります。そして御父と御子は聖霊において結ばれているのです。

これは人間の歴史におけるベトレヘムの秘義です。聖霊の御働きにより、神の御子がおとめからお生まれになりました。その「おとめの名はマリヤ」(ルカ1・27)

クリスマスはまた人間の内的な秘義であるとも言えます。神が人間となってお生まれになる。そしてそれは、恩寵の力により人間が神の「養子」になるためでありました。

このようにクリスマスは三重の秘義をもたらします。それは、よきおとずれとキリスト者の生き方全体をなす三つの誕生のことなのです。

3 私たちは今、「神の力強い御業」(使徒行録2・11参照)を眺めるために神の御母に近づきます。

そして祈ります。私たちのイエズス・キリストと光栄の御父が、神を深く知るための知恵と啓示の霊をお与えくださいますように。(エフェゾ1・17参照)
さらに祈ります。私た



ちの心の眼を開いて、私たちがどれほどの希望に召され、遺産としてどれほどの光栄の宝が準備されているかを知ることのできますように、と。(エフェゾ1・18参照)

私たちにとってクリスマスが本当に神の御公現(あらわれ)となるよう、私たちの心の眼が照らされなければなりません。羊飼いの、東方の博士たち、シメオンとアンナ、洗礼者ヨハネ、そして使徒たちにとってそうであったように。聖徒たちのおびただしい光栄の遺産を受けるために。

博士たち 神を求める者の模範

「われわれはその(ユダの王の)星のぼるのを見たので礼拝に来た。」これは、東の国の博士たちがエルサレムに来て、「お生まれになったユダの王」について尋ねたときの言葉でした。そして、それはまた、主の御公現の祝日、すなわち、異教の暗闇に住む人々の救い主・神の子として、イエズスが御自分をお現わしになるきょう、私たちが繰り返す言葉でもあります。キリスト者にとって懐かしいこの祝日が、再びイタリアで復活したことを嬉しく思います。それは、本物の宗教的、典礼的雰囲気の中で、より一層充分かつ静かに祝うことができるからです。

をばっかり見出そうと、未知の事柄や危険に屈せず旅立ったのです。その旅は、御母と共におられ、眠っていらっしやるみどり子イエズスを見つつけ礼拝することで終わりました。博士たちは宝物を捧げましたが、そのかわりに測り知れないほどの贈り物、つまり信仰、そしてキリスト信者としての喜びを得たのでした。
大聖グレゴリオの勧めに耳を傾けてみましょう。

さて、異邦人を代表する博士たちは、神を探し求める私たちの模範です。博士たちは、被造物のうちにいる神の静かな現存に気づきました。それからその垣間見ただけ

「星を見ただけで、博士たちは大いに喜んだ。私たちが心にこの喜びを持つとうではないか。博士たちと共に、みどり子を礼拝しようではないか。主なる神は私たちの光である。神の姿をしてもなく、弱い私たちを威圧するでもない。奴隷状態にいる人々を救うために来られた。喜びを、せめて贈り物で表わそうともしないほどに、無責任、恩知らずな人はいないだろう。星が空に現われ、博士たちは祖国を旅立つ。世界中がほら穴に集まる。手ぶらで来る人は一人としていない。恩知らずであり続けることのできる人などいない。」(『説教』6:PG31,1471f.)

博士たちは私たちの道案内であります。私たちの旅の手立て、そして目的は、時のうちにあってはマリヤの子、そして永遠においては御父の子、イエズスでありますから。
(一九八六・一・六)

天使—

救いの奉仕者



天使の創造 ③

うことになるわけです。(1・4参照)

特別のはからいと心づかい

1 前回お話ししたのは、神が目に見える世界の創造主であると同時に「見えないもの」の創造主でもあるという信仰箇条についてでした。そして、神の救いの御計画を忠実に受け入れ神に従うものとなった天使と、これを心底から拒んで神に背くものとなった天使の存在について述べました。

主イエズスはサマリアの婦人に「神は霊である」(ヨハネ4・24)と仰せになりましたが、完全な霊である神の似姿を特に具現しているのが純粋な霊的被造物である天使です。従って、天使は神に最も近い被造物であると言えます。また、神の啓示を人間に伝えるにあたり、すぐぶる重要な働きをするのも天使です。この点は福音書の中で天使に与えられている呼び名からも明らかです。というのも、angeli アンジェルスとは、「使者」を意味する言葉であり、また旧約聖書の中のヘブライ語 malakim マラキはもっと具体的に「代理人」とか「大使」を意味する言葉であるから。霊的被造物である天使は、神と人間との仲介役あるいは媒介役を果たしています。従って、ヘブライ人への手紙の中で天使の名にはるかにまさる名を授けられたと記されている主キリストは、まさに仲介の奉仕者とい

2 この造られた世界が神への賛美のしるしとして創造主の栄光を謳うとき、とくに天使がこれに参与します。「天において主をほめよ、高きところにて主をほめよ、天使らみな主をほめよ……」(詩篇148・1〜2) 「天使たちよ、みことばの声を聞き、その命を行なう力ある者よ、主を祝せよ」(詩篇103・20) 詩篇はこのように歌っています。これらの詩篇から、「神の命を行なう力ある者」である天使は、神の御摂理に従って、確かに神の被造物主宰にあずかっていることがわかります。そして、人間に対する特別のはからいと心づかいは天使に委ねられているのです。例えばトビアの書(3・17、12・12参照)に、人々の願いと祈りは天使によって神の御前に取り次られる、と記されているように。

詩篇作者は次のように歌います。「主が天使たちに命じ、あなたの道を守られたからだ。足が石につまずかぬよう、彼らがあなたを手で支える」(90・11〜12参照)と。愛深き神の大使としての天使の働きは、人間一人ひとりに及ぶものであることはもち

ろん、特別の任務を担っている個人にも、また全ての国々にも広く及ぶものです。(ダニエル10・13〜21参照) 主キリストの救いの御業における天使の役割は、新約聖書のいたるところで強調されています。最初は神の御子の「託身」の秘義において、更に、洗礼者ヨハネの誕生を知らせるとき(ルカ1・11参照)、キリスト御自身の誕生を知らせるとき(ルカ1・26参照)、マリアとヨゼフに説明と命令を伝えるとき(ルカ1・30〜37、マテオ1・20〜21参照)、主の御降誕の夜に羊飼いたちに指示を与えるとき(ルカ2・9〜15)、お生まれになった初子をヘロデの迫害から守るようお命じになったとき(マテオ2・13参照)など。全て重要な瞬間に天使が大きな役割を果たしているのに気づきます。福音書をさらに読んでいくと、主イエズスの荒野での四〇日間の断食中にも天使は現われています。(マテオ4・11参照)そ

してゲッセマニでの祈りのときにも、また、主キリストの御復活ののち、急ぎ墓に着き、墓が空になっているのに気づいて驚いている婦人たちに「天使は若者の姿で現われて言いました。」「恐れるな。私はあなたがたが十字架につけられたイエズスを捜しているのを知っている。だがここには在さぬ。御言葉どおり復活された。すぐに弟子たちに知らせに行け……」(マテオ28・5〜7)と。それから、主イエズスの御出現を逸早く目の当たりにしたマグダラのマリヤにも二人の天使が現われます。(ヨハネ20・12〜17、ルカ24・4参照) さらに、主イエズスの御昇天ののち、弟子たちに現われて言いました。「ガリラヤ人よ、なぜ天を見つめて立っているのか。今あなたがたを離れて天に昇られたあのイエズスは、天に行かれるのをあなたがたが見たように、またそのようにして来られるであらう」(使徒行録1・10〜11)と。

4 世の終わり、すなわちキリストの再臨の場面にまで進んで行くと、どの共観福音書も異口同音に「人の子は父の光栄のうちに、聖天使たちと共に来る……」(マルコ8・38、マテオ16・27、マテオ25・31(最後の審判)、ルカ9・26、②テサロニケ1・7参照)と記しているのがわかります。純粋な霊である天使は彼らにふさわしいやり方で神の神聖さに与るばかりでなく、キリストが救いの御業を成就なさる重大な瞬間にも、主のおそばに付き従っています。

教会の聖伝と教導職はずっと、救いの奉仕者としてのこのような性格と働きを天使たちのものであると考えてきました。

す者たちの、罪の拠点と化してしまいましたが、つまり「汚れて」いるのです。けれども、人間の内奥の核とも言えるこの同じ心が神に向かって開かれるなら、神の似姿として創造された当初の「清らかさ」を再発見することができましょう。

心は改心の行なわれる中核でもあります。神は人間の側から改心をする人間自身のために望んでおられます。というの、それは神との親しい交わり、すなわち神の愛の中に入り込むことに外ならないからです。人間は無感覚で冷淡なものとしてではなく、神に向かつて開かれたものとし

人を変えるのはキリストのわざ

肉の心

1 「おまえたちに、心を与えよう。」これは預言者を通して語られた神のおことばです。その意味は次の文で明らかになります。私

はおまえたちの上に清い水を注ぐ、こうしておまえたちは、汚れを清められる。(エゼキエル36・25) そう、神は人間の心を清めてくださいます。愛の住み処として造られたはずの心は、神への拒絶と、神に背を向けありとあらゆる「偶像」の前にひれ伏

説教・講話・書簡等の抄訳

て造られました。預言者のごときはなんと甘美にひびくのでしょうか。「石の心を取り除き肉の心を与えよう。」(エゼキエル36・26) 肉の心。人間の感受性を持ち、聖霊の息吹きに応じることのできる肉の心。エゼキエルは次のように言っています。「おまえたちに新しい心を与え、おまえたちのうちに新しい霊をおこう。」(36・26、27)

兄弟姉妹のみなさん、私たちが清め、改心させてくださる主の霊に身をゆだねましょう。私たち一人ひとりが、人生におけるインスピレーションと未来への光、意向を清める明澄さを見出すことができますように。

本日、私は特に家庭と家族に向けられた、すばらしい贈り物についてお知らせしたいと思います。神がお与えになる清い心のことです。私たちが真の愛に生きることを、お許しになるのです!

2 預言者のごときは福音体験の深みを予告しています。来たるべき救いはすでに目の前にあるのです。

ところで、聖霊はどのようにして人の心にお入りになるのでしょうか。イスラエルの神がご望みになった「変化」とはいったい何なのでしょう。この変化とは、すなわちイエズス・キリストのみわざ。神は永遠の御子キリストを惜しまれず、私たちすべてのためにお渡しになり(ローマ8・32参照)、御子によって、また御子とともに、すべての恩寵と他のあらゆるものを私たちに与えてくださいました。

これこそイエズスの驚嘆すべきみ

わざです。最後まで、十字架上の死に至るまで、見とけなければなりません。そうすればすべては明かされます。キリストが御父の御手に靈魂を「ゆだねられた」(ルカ23・46参照)とき、そのことは起こるので。「兵隊たちが来た……イエズスの所に来るともう死んでおられた……ひとりの兵士がやりで脇を突いたので、すぐ血と水が流れ出た。」(ヨハネ19・32、34)

取り立ててどうということのない

□愛というすばらしいものがあれば、訪れる試練に耐え、いやなことを許し、手の焼ける子供を快く迎え入れ、配遇者の生活を明るくすることが出来ます。

できごとのように見えます。それはゴルゴダでの、ローマ人による刑執行の最後の行為でした。死刑判決を受けた男の死はもはや疑いようもありません。そうです、イエズスは死なれた、本当にお亡くなりになったのです!

この死において、イエズスは自らの本性をあますところなく示しておられます。槍に刺し通された心臓が最後の証明です。十字架のもとにとどまった使徒聖ヨハネには、それが

わかりました。代々を経て、キリストの弟子と信仰の師たちは、それを理解してきました。そして十七世紀に、聖母訪問会の一修道女がこの証明をあらたに受けとることにあります。マーガレット・マリーは近代のはじめ、全教会にこの証明を伝えました。

十字架上で貫かれた御子の聖心を通して、御父は全てを惜しみなく私たちにお与えになります。世界と教会は、慰め主である聖霊を受けました。イエズスのお言葉によると、「私が去れば、あなたたちに弁護者を送る。」(ヨハネ16・7) 刺し貫かれた聖心は、イエズスが「去った」ことを証ししています。御腹から流れ出た水は、聖霊のしるしです。かつてイエズスはニコデモに向かい、「水と霊による」(ヨハネ3・5参照) 新し

い誕生についてお話になりました。預言者の言葉が成就します。「おまえたちに新しい心を与え、新しい魂をおこう。」(…)

夫婦愛の真の意味

3 多くの家庭がよく証明しているように、幸福のもとは忠実という徳。また、夫婦相互の寛大さと、親として子供に接する上での寛大さが、幸福の真のみなもとです。自制する努力、短所を克服すること、日々の各瞬間ごとの忍耐——これらすべてが歓迎すべき豊かな成長につながるのです。

愛というすばらしいものがあれば、訪れる試練に耐え、いやなことを許し、手の焼ける子供を快く迎え入れ、

配遇者の生活を明るくすることが出来ます。たとえ自分は弱く、無力であったとしても。

そこで、司牧者のみなさんと家族の指導にあたってくださる方々にお願ひします。道徳についての教会の教えが力強い支えになることを人々に教えてあげてください。現代のよ

うな混乱と矛盾にみちた状況のなかでは、主として使徒的勧告『ファミリーアリス・コンソルツィオ』に示された、暮らし方の分析と規範をとり上げるのがよいでしょう。この勧告は代表司教会議に基づき、公会議と教皇の教えを総合してあらわしたものです。

第二バティカン公会議は次のように述べています。「神のおきては夫婦愛の十全な意味を示し、この愛を守り、その真に人間的な完成へ導く。」(『現代世界憲章』50)

4

そうです、婚姻の秘跡によって、神の英知との契約、キリストの聖心の限らない愛との契約のうち、みなさん方の家族には、豊かな人間性と、神および人類に対する愛の使命をはぐくむための手段が与えられているのです。

キリストの聖心を喜び迎え、家庭をキリストにゆだねてください。神の御前で結ばれた契約、つまり婚姻の秘跡に対し、寛大かつ忠実であることができるよう、キリストの御助けを願ひしましょう。キリストの愛に助けられ、別離に傷ついた独りぼっ

人に容易に納得できるものとなりますように。

受けた信仰に励まされて、みなさん自身の子供たちが福音のメッセージと、正義と平和の建設者としての自らの役割に関心をもてるよう助け

てやってください。教会の生活に積極的に入って行けるよう後押ししてください。自分の責任を他人に押し

つけないで、司牧者または子供の教育にあたる人々と、信仰や兄弟的一致、共同体を活気づけることなどに関

して、協力してください。家庭生活において、主のために特別の場をもうけ、共に祈ってください。神のおことばに忠実に聞き従い、秘跡：とりわけキリストの御体を拝領する聖体の秘跡に与ってください。日曜日のミサには必ず参加しましょう。キリスト信者にとって欠かすことのできないものですから。ミサのなかで、「十字架上で御自身をお与えになるキリストの愛」(『ファミリーアリス・コンソルツィオ』13参照) に結びつけられた夫婦愛に感謝をさげてください。苦しみや悲しみでさえも、キリストの救いのいけにえとともに神におささげすることが出来る

不変の教え

聖母への奉獻

ミサのち教皇様は、四世紀にわたって崇敬されてきたロザリオの聖母像を訪れ、次の奉獻をなされた。

めでたし、マリヤ!

私たちは天使とともにあなたに挨拶いたします。聖寵に満ちた御方よ、主はあなたとともにおいでになります。(ルカ1・28参照)
エリザベトとともに挨拶いたしました。あなたは女の中で祝福された方で、あなたの胎内に実るものも祝福されています。幸せなこと、主から言われたことの実現を信じた方は!(ルカ1・42・45参照)
福音書のことばをもって、挨拶いたします。幸いな方、神のおことばを聞いて、それを守ったあなたは。(ルカ11・28参照)

聖寵に満ちるマリヤ!

父に愛された娘よ、あなたをほめ称えます。みことばの御母、私たちはあなたを祝します。聖霊の宿り場である御方、あなたをあがめます。全教会の母であり、模範であるあなたに、依り頼みます。全人類の希望そのものであるあなたを黙想します。

主御身とともにまします!

御告げを受けた聖なるおとめ、全

人類を代表して、救いの秘義を受け入れた御方。

シオンの娘、御訪問の秘義における新しい契約の糧。

ベトレヘムでお生まれになったイエズスの御母。あなたは、純朴な羊飼いらと東方の賢人たちに、主をお示しになりました。

神殿に御子をささげ、エジプトにともない、ナザレトへお連れになった御母。

主の小径、その隠れた生活と、カナでの奇跡をお示しになる聖処女。カルワリオにおける悲しみの御母。御復活の、栄光のおとめ。

聖霊降臨を待ち望み、喜ぶ主の弟子たちの母。

御身は祝せられ……

主の御言葉信じ、その御約束に希望をおいた御身は祝せられ給う。愛において完全な御方、エリザベトへの心のもった愛の業ゆえに、ベトレヘムでの母としての慈愛ゆえに、試みの中の剛毅ゆえに、御身は祝せられ給う。

神殿で屈せずイエズスを捜し求めた御方、ナザレトで質素に暮らし、母として十字架の傍らに立ち、変わらぬ忠実さで御復活を待ち望み、たゆまぬ祈りをもって聖霊降臨を迎えられた御身は、祝せられ給う。

栄光のうちに、天にあげられた御身は、祝せられ給う。

母の愛で教会を守られる御身は、祝せられ給う。われら人類のための絶えざる御取り次ぎのゆえに、祝せられ給う。

天主の御母、聖マリヤ!

私たち自身をあなたにお捧げいたします。

あなたは神の御母、また、私たちの母であらせられるから。そして、御子イエズスが、私たちをあなたにお託しになったから。(…)

この聖地の四百年記念を祝うために集まった私たちは、あなたを称えます。全ての教会を、司牧者と信者たちとともに、御前にお捧げいたします。

司教たち、善き牧者にならって、自らに委ねられた人々を牧する司教たちを、聖霊の聖別を受けた司祭たちを。

キリストの王国のため、命を捧げた修道士、修道女たちを。

主の召命を受けられた神学生ら。既婚の人々、不解消の絆に結ばれ愛に生きる人々を。

使徒職に携わる信徒たちを。新しい社会を切望する若者たちを。より人間的かつ平和な世界を受け

継ぐべき子供たちを。

病人、貧者、獄につながれる者、迫害される人、孤児たち、すべて希望を失い、死にゆく人々を。

私たちはあなたにお捧げいたします。この国全体を。この国の守護の聖人、女王であるあなたに。

福音の真価が、教会を通して輝き出ますように。

罪人なる我らのために祈り給え!

教会の御母、私たちはあなたの御保護のもとに逃れます。御導きに、この身を委ねます。

教会のためにお願いいたします。教会が純粹な信仰を保ち、忠実であ

お願いいたします。教会が完全無欠の愛と信仰の交わりのうちにつねに保たれ、従順と兄弟愛の強い絆でペトロの座に結ばれますように。

新しい福音宣教が豊かな実りをもたらしますように。

貧しい人々への援助、青少年のキリスト教形成に、力が注がれますように。

司祭職と修道生活への召し出しを増してくださいますように。

布教にたずさわるための、また家庭生活における一致と神聖さに身を捧げるための、寛大な心をお与えくださいますように。

今も臨終のときも……

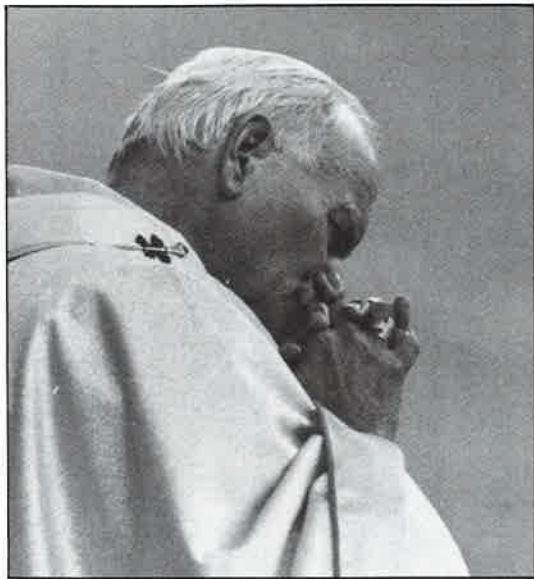
ロザリオの聖母、コロンビアの御母、私たちのお母様! われらのために、祈り給え。

至上の価値ある平和を、われらに与え給え。すべての憎しみと敵意を赦し給え。全同胞を和解させ給え。暴力とゲリラ紛争が終わりを告げ、対話の成果があがり、国がまとまって、平和な社会生活が始まりますように。

平和の元后よ、伏してお願いたします。今も、臨終の時も!

不正と暴力の犠牲となったすべての人々を、御手に委ねます。また、自然災害で命を失った人々と、死に臨んで、母であり守護者であるあなたの許へ立ち返る人々をも。

天国の門、私たちの命、甘美さ、希望となり給え。あなたと一緒に、聖父と聖子と聖霊の御名を称えることができますように。アーメン。(コロンビアにて、一九八六・七)



り続けることができますように。確たる希望、愛徳への熱意、使徒職と宣教に喜んで挺身する心を持ち、子供たちの間に正義と平和を広げる事業を推し進めることができますように。

ラテンアメリカの全教会のために

『教皇様の声』ヨハネ・パウロ二世教皇の説教・書翰・講話などを解説なしにそのまま伝える月刊紙 ■毎月 十日発行 ■定価 一部七十四送料四十円 ■一年予約八〇〇円送料五〇〇円 ■二十部以上の一括購入なら送料不要

郵便振替 3-72393